

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257		
法人名	(株)桜梅桃李		
事業所名	グループホーム和楽の家 上道		
所在地	岡山県岡山市東区才崎260		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①その方に合った役割を提供し、やりがいや自信を持って生活して頂く。また、その方に合った自立支援を大切にしている。
 ②ご家族に報告連絡相談をまめに行い、施設に足を運んでいただきたいと思っている。ご本人の生活史やご本人・ご家族の要望・思いをお聞きし、情報を職員全員で共有し日々の個別ケアにあたっている。写真も交えた回想法を大切にしている。
 ③その方の生活のリズムを把握し、排泄リズムを知り、時間毎に声かけし、トイレ誘導したり、旬の野菜や多くとりいれたメニューや青汁ヨーグルトなど多くの種類の飲み物を用意し水分を多くとっていただいたり、朝一番に冷たい飲み物を飲んで頂いたり、腹部マッサージをトイレに座っていただいたときにこちらでさせていただいたりと排便リズムをつくるようにしている。即効性はないが、日々気を付け習慣づけている。
 ④ドライブや買い物、日光浴、散歩等の社会支援を出来るだけ行いたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの生活を大切にし、その人らしい暮らしが続けられる様回想法や音楽療法を取り入れながら自立した日々が送れる様支援に取り組んでいます。
 訪問しやすい環境づくりに努め又、地域に密着した施設として日常的な交流により安心して過ごせる様取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が事業所理念を理解していくようにしている。向上会議で、日頃から、思いや目標を発表したり、話し合ったりする事で、理念の基づいたケア向上に繋げている。	「介護理念」「平成27年度ホーム目標」を目線の位置に掲げています。向上会議で理念の意味するところを理解し心穏やかに入居者と関わる様取り組んでいます。	事業所の意識を踏まえながら全職員が日々、入居者支援の理念を具体化し取り組むように努められることに期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩したり、近くの小学校や公民館のイベントに参加したり、幼稚園の訪問を受ける事で、地域の方との顔なじみが出来、話が出来た。秋祭りや運営推進会議など地域の方に参加いただき、交流の場を作っている。	地域と様々な交流を通して地域との繋がりを築く様努め、入居者の暮らしに広がりを持つ様取り組んでいます。	地域住民の一員として町内会に加入され、日常的に交流・情報交換を深め地域の中に溶け込まれる事を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会に参加した職員が、他の職員に伝えるという形で勉強会を開いた。又、月1度の向上会議で短時間での勉強会を開催した。介護職員向けの月刊誌を休憩室に置き、知識を深め、ケア向上をはかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、食中毒やリハビリ、消火器の使い方など、身近なテーマを取り上げ、地域の方、ご家族も参加しやすいように考えている。地域の方、ご家族からのご意見・質問があれば、職員にも伝え共有している。	2カ月に1回、課題を決めて開催して有意義な会議になる様取り組んでいます(地域包括支援センター、介護保険課の方への参加をお願いしているが出席がない)。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席回数が増え顔見知りになった地域の方が何名かおられる事に嬉しく思う。勉強会・行事を開く際、内容・講師の紹介をしていただけるかご相談している。	担当者とは連絡を取り合い、実情報告、勉強会の講師紹介依頼等、協力関係を築くよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族・職員と話し合い、一番良い方法を考えた上、納得した上で、やむおえず身体拘束をしなければならないケースが増えてきた。4点柵といった身体拘束に対しては、職員・ご家族の間で日々改善出来る様に話し合いを持っている。	一部拘束の対象となる行為もあるが一時的にとどめる様、工夫・改善に取り組み危険性と安全の面から話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、虐待とはどうゆうものなのか、日常生活の中で身近に起こりうる事例を取り上げ職員で向上会議の時に話し合った。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで、名前や制度について聞いたことがある程度で具体的には学べていない。積極的に参加する必要があるが、なかなか出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネージャーがご家族に説明を行う。不明なことなどは、質問をお聞きし、本社に確認した上で再度説明し、理解と納得をしていただいけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間通じての行事(特に家族総会や運営推進会議)・面会などで、ご意見・要望をお聞きし、職員に共有し、より要望に添えるよう改善できるよう努めている。	家族会も平日の為、参加者が少なく面会時なども含め意見や要望を聞く様努めています。定期的に写真や手紙で報告したり、電話で様子を伝えるなどして現況を伝えながら要望の収集に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場、ケアの向上など毎月の会議にて職員同志、話し合い決定している。現場解決できない問題は、本社へ相談し、改善、解決を図っている。	毎月の向上会議で、個々の考えや要望を話し合い出来る事から始めて改善を図っており、出来ない問題は本社へ相談し改善の糸口を検討し、運営に反映する様努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任が職員の要望・意見・日頃の思い・悩みなど耳を傾ける様に心がけている。必要があれば、本社へ報告・相談しながら、より改善できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会(認知症について・感染予防・事故防止・人材育成)や施設外では認知症研修・介護技術など職員個々に応じた研修に参加できる様に働きかけている。研修内容について報告書を提出し、職員全員で共有し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加したり、同法人内での相互訪問などを行うようにしてはいるが、なかなか実行出来ていない為、二か月に一度ある管理者会議で情報共有をしている。他の施設の良いところ等どんどん取り入れていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の入居者様との会話、行動、表情の変化に早く気づき、日々の状態を把握し、また、早期対応をしている。個々の生活史を職員間で共有し、尊敬の念を常に持って接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の日々の様子をまめにお伝えし、できるだけご家族の要望に沿えるように努め、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後、暫定プランを立て、その後、ご本人の状態把握により、要望や、必要な援助を判断し、ご家族の意向を伺いつつ、再プラン作成にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、一人の人、人生の先輩として敬い、我々が教えていただく気持ちで接し、喜び、悩み、怒り等共に共感しながら日々過ごせるよう努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・運営推進会議・面会など、定期的に施設に足を運んでいただける機会を設けると共に、働きかけを実施している。面会の際には、近況報告を行い、ご家族の思い・ご要望・ご意見を伺い、コミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「人間関係を変えるな、環境を変えるな」をもとに、ご家族の協力により面会の機会を少しでも多く持つて頂ける様をお願いしている。又、職員とも外出機会を作るように努めているが思う様に支援できていない。ケアの必要性もご家族にしっかり発信していきたい	面会の方が多く新たな馴染みの関係もホーム内で出来ています。受診の時など外出の折、馴染みの店や自宅近くへドライブしたり出来るだけ機会を見つけて支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話が弾むような環境作り、一人きり孤独にならないような環境作りを、色々な場面において、さりげなくお手伝い出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで築き上げた信頼関係を大切に、ご家族様との支援作りに努めている。ご家族様が面会に来て下さった時に写真をお撮りし部屋に飾ったり、ご家族にお渡ししたり、感謝をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中から思いをくみ取り、カンファレンス(向上会議)で、職員一同情報を共有し、ご本人の希望・意向の把握できるように努めている。面会時などご家族に、日頃の経過記録を見ていただき、ご本人の真の気持ちを理解していただき、ご本人の思いが実現するよう穏やかで安心出来る様な日々のケアにあたる。	今までの生活習慣を大切にしながら、日常生活の中で職員は「見る目、聞く耳、気づき」を心掛け、入居者が何を求めているか把握し、家族とのコミュニケーションに努め、本人本位に検討し、日常生活の経過の記録をみながら支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居いただく際、ご家族に記入していただきたい人生歴や日常の会話などから得た情報をファイルにまとめ、いつでも職員が参考になるようにしている。入居後、その方の会話等から追加情報を得るようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日常生活の流れは、決まっているが個々のペースを尊重し、ケアプランに沿ったケアに努めている。特に、変更や緊急性のあるものは、介護日誌や処遇ノートにその都度、記入し、毎日、職員が目を通し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス(向上会議)にて、職員全員で意見交換し、入居者様一人一人のモニタリングを実施している。ご家族の要望や思いを面会時や電話連絡時などに伺うようにしている。カンファレンスは、基本的に全員出席とし、情報の共有に努めている。	日常的に支援している全職員と本人、家族、関係者の意見を取り入れ、現状に即した介護計画の作成に取り組み、モニタリングでしっかり話し合い情報の共有に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々会話を個別記録に残し、その中からご本人の思いや、意向の変化をさぐり、その都度、話し合い、援助計画の変更をしている。又、ご家族へも思いを伝えていく。個別ケア向上に努めている。なかなか書式の徹底が出来ていないのが課題		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して、本人様の気持ちを尊重しつつ、ご家族様のご意見を伺いながら改善、解決を心がけて、より良い生活を送っていただける様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内では毎月1回、ボランティアにて同地域民生委員の方の絵手紙教室、シルバーリトミック（音楽療法）の開催、楽しいひと時など、心身に活性化して頂けるようにしている。地域小学校、幼稚園の訪問や行事には、積極的に参加しふれ合いの機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回の予防歯科往診にて充実した口腔ケアが行われるようになった。又、心療内科医の月1回往診。高齢により持病の悪化も増え内科医との密の連携が必要になり異変があればすぐに報告し、必要に応じて往診をして頂ける為、ご本人・ご家族・職員が安心出来る様になった。	内科・心療内科・歯科など専門性の高い医療支援に取り組んでいます。家族、職員の安心にも繋がっています。通院同行など家族、職員で適切な医療の支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時は必ず看護師に報告し指示を受ける（看護師1名24時間対応可能）職員の気づきや細かい体調変化をチェックし、必要に応じ、かかりつけ医師に報告・医療との連携に繋げて、早期対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは、早期退院、退院後のケアへ繋がられるよう、情報提供書を交換し、情報の共有と異常の早期発見に努めている。できるだけ面会させて頂き、家族との連絡のやり取りをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りをお二人経験させていただいた中で情報共有の重要性によりより一層のきめ細かい配慮が必要である事を職員一同学んだ。貴重な経験を元に、ご本人・ご家族のご要望に応えられる様、看護師・管理者を中心に、日頃から医師・ご家族との連携に努める。	24時間対応の医療支援とホームでの看取りを希望される入居者には段階的に本人、家族と思いをしっかりと話し合い希望に添えるよう、看護師、管理者を中心に前向きな取り組みが窺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、対応マニュアル新たに作成し、会議や各自で再確認する。消防の方にご協力して頂き、年2回避難訓練の実施。消火器やAED（施設内にてAED設置した）の使い方を各自再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に避難訓練を実施し、改善点など具体的にあげている為、出来る事から改善したいと思っている。運営推進会議での避難訓練を実施した際、参加下さった地域の方と、避難場所の確認や避難時にご協力して頂ける様なお話をさせていただいた。	運営推進会議開催時を活用して年2回、地元消防団参加の下、入居者と共に避難訓練を実施し訓練の方法の見直しや火災予防への意識などスキルアップを図っています。	消防署の指導を受け、ゲリラ豪雨による浸水等、災害は多岐にわたり突然起こるものです。地域の方々との協力体制を築き災害対策を継続していかれる事を期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりのこれまでの人生を受けとめ、会話やケアの言葉が一つにしても安心頂ける様な環境を心がけている。その方を尊重した関わり・声かけを大切に個別ケアを実施している。	その人その人にあった言葉かけを行うよう心掛け、尊厳を損なわないよう「介護理念」に添った接遇を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコーヒータムでは入居者様・職員が回想を交え、ゆっくりと会話しながら思いや要望が聞き取れる様にしている。生活援助の中でも一つ一つ声かけ、ご自分の思いを確認しながら自己決定して頂ける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースに合わせる様に、心がけをし、その時々々の状況で臨機応変に声かけしている。散歩、買物、調理洗濯干し等、職員と共に実施し、個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、ご自分で選んだ洋服を着てもらったり、洗面所の前で髪の毛をといたり、顔を拭いたり洗ったりしていただく様に、ご自分でしていただける声かけをしている。訪問美容を2か月に1度利用(希望者、ほぼ全員)ご家族で散髪をされる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛り付け、皮むき、配膳、味見、お盆運び、机拭き、後片付け等、リハビリも兼ね個々に合わせて共に行える支援をしている。食事は職員も同じメニューを同じ机でおしゃべりしながら明るい雰囲気での食事を心がけている。味や好みの話題も盛り入れ楽しい会話が出来よう働きかけている。	栄養管理された献立の食材(業者)を調理しています。入居者がおかずの盛り付け、後片付け、その他リハビリも兼ね能力に応じて参加し、食を楽しむ支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、1か月分本社で決めている。職員が当番で調理している。食事摂取、水分量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。食事量が少ない時は、高カロリー補助食品やご本人の嗜好品を提供している。水分の種類や水分が取れるゼリーなどで水分量を増やしている。体重増加などで、気をつけないといけない方には、野菜を増やしたり、カロリーの少ない飲み物を美味しく飲んで頂ける様な工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行ってもらう様な声かけをし、個々に合わせた仕上げ磨き、口腔ケアを行っている。希望者は、訪問歯科を利用している。週2回義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、排泄パターンを記入し、必要な方は、声かけにてトイレ誘導をする。パットや紙オシメなどの使用は、向上会議で職員で話し合った上、決定し、その方が今一番必要な対策を考え実施している。	個々の排泄パターンを把握し出来るだけ自立した排泄への支援に努め、トイレ誘導のタイミングや声掛けに注意しながら自立した排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、飲むヨーグルト・青汁等の飲料などを飲む、繊維質の多いバナナ、野菜やきのこ類等を食事に多く取り入れる、腹部マッサージをする等で、腸の運動を促すよう心がけている。それでも便が出ない時は、主治医・看護師の指示のもと下剤を服用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、入浴をして頂ける様に心がけている。入浴拒否がある方は、タイミングをみて声かけ誘導したり、調子が良く気が向いた時に入浴していただく。	拒否される方も含め、個々に添った支援でゆっくりと入浴してもらう様心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2.3時間おきの巡回を実施、特に注意が必要な方は、時間に関係なくまめに巡回する。転倒などの注意が必要な方は、センサーを設置し、事故のないように充分注意を配る。一人一人の日々の睡眠状態を把握し快適に睡眠をとっていただく様な環境を整え、体調・不安等を観察しつつ、休息を取って頂くようにする。救急時の対応マニュアルにそって、急変時・異変時などに職員が対応出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前には、誤薬を防ぐために、職員2人で確認を必ず行う。服薬拒否、困難時には、服用しやすい様な工夫したり、錠剤を粉にしたりして、服用しやすくして頂く様にする。最後まで飲み込んだ事を必ず確認し、職員は、責任を持って、記録に印を押す。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の準備(皮むき・味付け・盛り付け・配膳など)掃除・洗濯(干し・たたみ)等をしていただく。体調や天候をみて散歩、日光浴、外出などの時間を設ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、日光浴・買物、ドライブ、外食、ホーム以外での行事等、外出できる機会を少しでも多く持つようにしたいが、ご本人の意思と計画通りにいかない事が多い。	本人の希望や天候・体調など様々な現状に配慮しながら日々の暮らしの中で戸外に出掛ける機会を設け支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の要望に応じ、欲しい物、必要な物は職員と共に買い物にその度出掛けるようにしたいが、なかなか出来ていない。ご自分で財布を持たれている方もおられるが、なかなか、お金を使う場面がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は、ご家族に面会のお礼やお電話でお話をれておられた事もあったが、今は、レベルの低下もみられ、出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、入居者様に季節感を感じていただけるような壁飾り(レクで入居者様と共に作成した物)やカレンダーで、日時が分かるようなしている。また、絵手紙・書道・硬筆などの入居者様の作品や楽しかった行事の写真などを飾るようにしているが、幼稚的になったり、ごちゃごちゃとしすぎないように気をつけた生活空間にしている。	空調管理が整い、フロアは南側に面し広々としており、明るく一日を通して生活感や季節感が感じられる様ソファや椅子・テーブルの配置など工夫し、居心地よく過ごせる様、気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファでの座る場所に気を配り、入居者同士のトラブルがないような配置を常に心がける。ご自分で自由に居室やホールで過ごしていただくようにするも、あまり居室に居る時間も長くなり過ぎないように(退屈と思われない様に)こまめに訪室し、不安や孤独や寂しい思いにならない様に配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族との写真や思い出の写真、絵、服など居室で目に届く場所へ飾り、その方々に合った安心した居場所作りをしている。面会時にご家族や知人にとった写真を大きく引き伸ばし、額に入れ、目に届く場所(居室)に飾るようにしている。	使い慣れた品々を持ち込み、その人らしい居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一つ一つ説明しながら了解を得たうえでケアを行う様にしている。また、ご自分で出来る事などの自立支援を1番に考え、意欲が出る様な声かけ・環境などに配慮をしている。安全、自立した生活空間を作っている。		